


第3号様式（第1項3号関係）

視察等報告書

2016年6月24日	
(あて先) 横須賀市議会議長	
会 派 研 政	
議員氏名 長谷川 昇 	
実施期日	2016年5月25日（水） ～ 2016年5月27日（金）
実施場所	愛知県半田市 兵庫県神戸市 広島県呉市
視察等内容	愛知県半田市：中学校部活動改革と総合型地域スポーツクラブについて 兵庫県神戸市：デザインを活用した政策課題の解決について 広島県呉市：近代史の展示と観光振興について
参加議員名	角井基・伊関功滋・長谷川昇・小林伸行・高橋英昭
添付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研修 <ul style="list-style-type: none"> ■活動内容を詳細に記載した報告書 ・要請又は陳情活動、会議 <ul style="list-style-type: none"> □要請書、陳情書、開催通知、スケジュール等の資料

備考 氏名を署名した場合は、押印を省略できます。



視察報告書

研政 長谷川昇

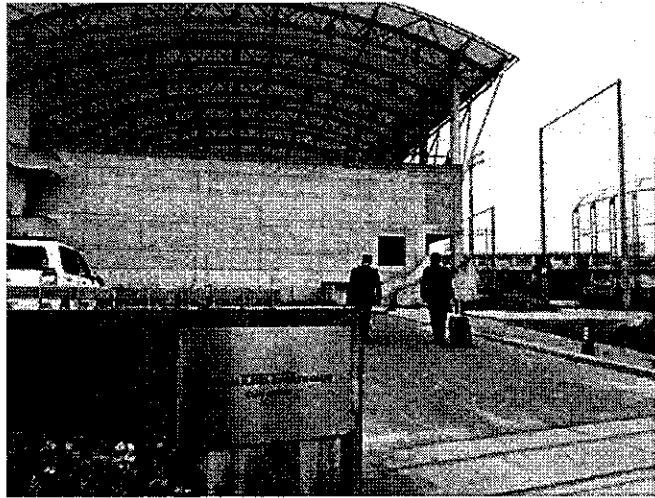
視察地 愛知県半田市・兵庫県神戸市・広島県呉市

日時 2016年5月25日(水)～2016年5月27日(金)

【所感】

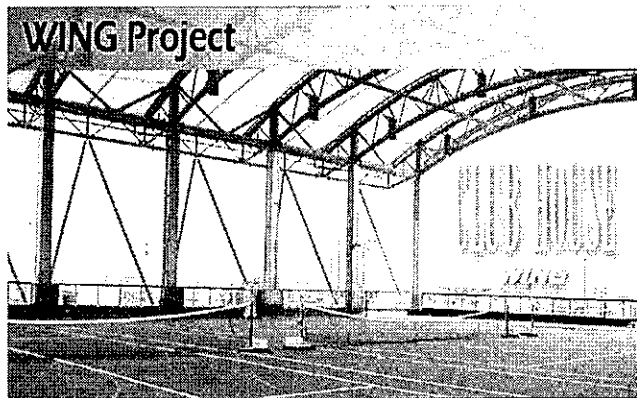
1・愛知県半田市 総合型地域スポーツクラブの取り組み

平成24年度から実施された新中学校学習指導要領では、運動部活動は、「学校教育の一環として、教員が生徒に対して、学校体育施設を用いて、様々なスポーツ指導を行う。」と規定している。学校現場の中で多くの教師が部活顧問になって、日々指導者として汗を流し、教育活動の一環として認識され、生徒指導の一面も担いながら活動の意義もまた高くなっている。



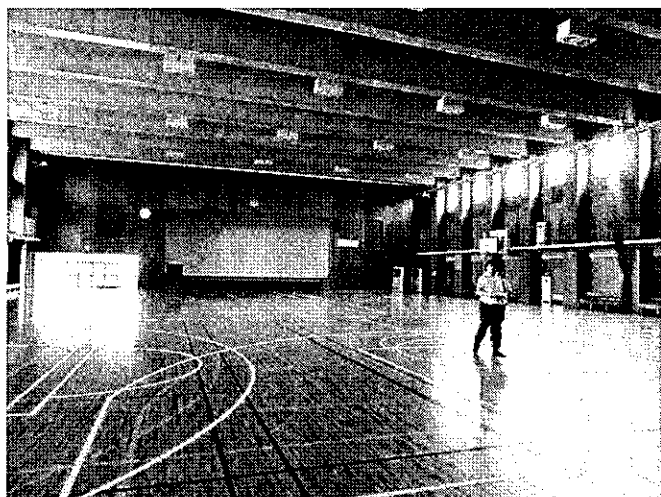
今回視察した半田市は、市内全域に総合スポーツクラブを設置して、地域の中での総合スポーツクラブを取り入れ、部活動の在り方について新たな実践をしているということから、半田市の成岩中学校を視察させていただいた。

愛知県半田市の成岩中学校では、1995年から取り組みを展開し、学校敷地



内の体育館を改修し、NPO法人が管理運営しているという。二階建ての体育館の中に、スポーツセンターの事務局がありそこで、地域スポーツの運営を担っていた。専任の職員3名とトレーナー兼stuffが2人配置され、入り口から民間のスポーツセンターのような

空間であった。訪問した時に、地域の子育て世代の女性のヨガ講座のようなもの開いていて、地域に開かれた体育館の様子が見られた。



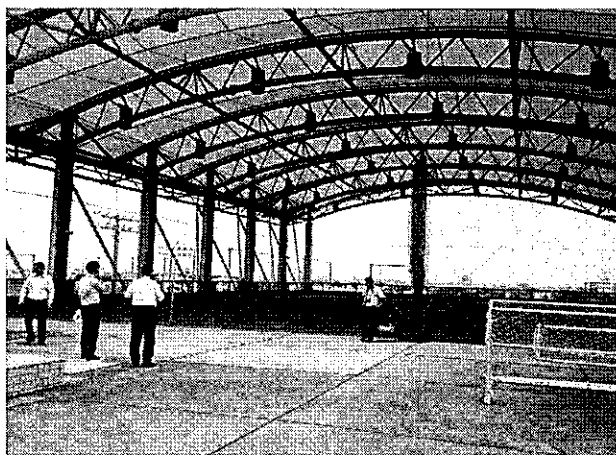
一番注目していたのが、学校部活が総合スポーツクラブになってどうなったのかである。当初、担当者が、文部科学省の研究委託もあり相当熱心に進めたという話も聞いた。「部活動の民営化・地域化」である。欧米の学校を例にとれば、生徒は、学校と切り離された地域のスポーツクラブに籍を置き、放課後や休業日のクラブ活動は、

地域の中で過ごす。この半田市でもこういったコンセプトで始められた。しかし同時にいくつかの課題も含みこむことになった。

一つの課題は、会員制有料クラブという点である。入会金3000円、家族会員月額2000円、個人も月額1500円の費用負担がかかる。会員は2000人程度が加入していることから、教師も生徒もこの会員にならなければならない。教員も会費を払ってクラブチームとして指導するということである。

さらに、二つ目の課題は、当初は学校の職員と部活動の棲み分けである。当初から、放課後の部活動は教師が学校内で担当し、土日は総合スポーツクラブの活動というくりで行ってきた。

しかし「大会で勝ちたいという子どもや保護者の声が大きくなり」、校長会の反対もあって、昨年規約を改定し「土日の部活動も総合スポーツクラブとしてでなく、学校部活動としてできるようになった」と聞いた。実際に部活のアウトソーシング化については後退している。



そこで、現在の状況では、小学生や社会人、お年寄りをターゲットに会員の拡大を図っていると聞いた。トータルで考えると、地域の様々な人の健康づくりを地域の中で作るという点ではおおきな役割は果たしてきている。今後とも注視しながら、横須賀においての部活問題の参考にさせてもらえるといい。

2・兵庫県神戸市：「KIITO」デザインを活かしたまち創り



神戸の街のデザインを受け持っている「KIITO」という会社が面白いというので、訪ねてみた。神戸の三宮駅から歩いて20分。海岸に近いところに「KIITO」があった。もともと生糸の輸出の検品所としてあったところを利用していた。「みんながクリエイ

ティブになる。そんな時代の中心になる」というのがコンセプト。

神戸で暮らす人や働く人。子どもや、若者や、大人たち。

そんなすべての人が集まり、話し、つぎつぎに何かを生みだしていく場所。

それがデザイン・クリエイティブセンター神戸です。

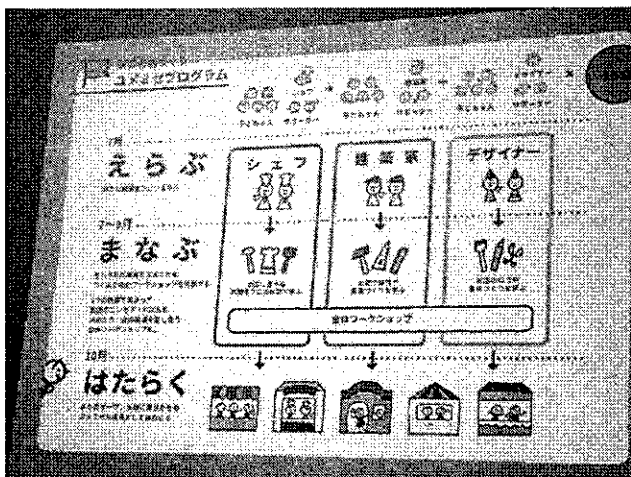
一部のアーティストやデザイナーだけでなく、

さまざまな人や世代が交流し、そこから生まれるアイデアや工夫で

新しい神戸をつくっていく。～

～「KIITO」ホームページ <http://kiito.jp/> より抜粋

横須賀にもこういったまちづくりのデザインを進めるコーディネータの拠点



があつたらいいと思った。芸術だけでなく、建築、デザイン、子どもとの合作のワークショップも面白い。専門家集団と子どもたちで、お店を作って何か商売をしてみよう。「ちびっくろべ」という企画だ。お菓子屋さんや喫茶店、新聞屋さんや報道局、専門家とコラボしながら具体的な仕事を学んでいく。

また貸スペースが大事な仕事。

「KIITO」の部屋を様々なクリエイ

イターに貸してお互いに連携もさせていく。デザインと発想力からまちをわくわくする場所に変えていく力を感じた。まちとデザインがこんなにも生きてい

ることを神戸の街を見て素敵に思えた。「横須賀で何ができるか」大きなインスピレーションをいただいた。

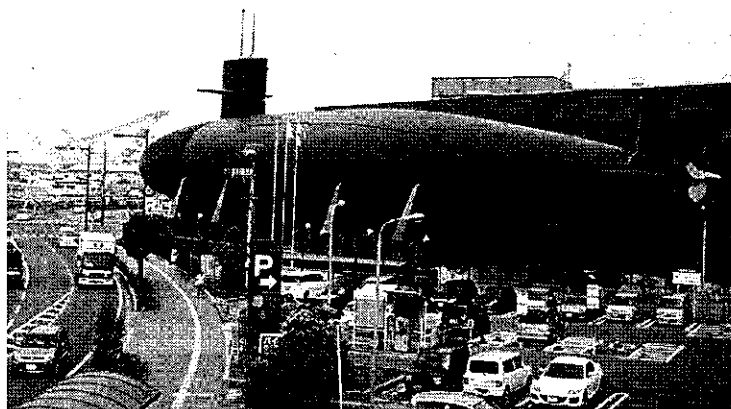
3・広島県呉市：海事歴史科学館「大和ミュージアム」



横須賀でも海事記念館をつくる方向で検討しているが、なかなか動かない。ティボティエ邸の再建計画と海事記念館はセットで作るべきとうちの会派からは、ずっとやってきた経緯がある。そこで、横須賀とは、旧海軍の鎮守府としてのつながりのある呉に訪れた。海事記念館ということでは戦艦大和の模型をメインにして、なかなか

かの展示であった。造船技術としての科学的な側面に着目した展示は興味深いものがありました。横須賀で海事記念館を作る時のイメージとして実際に展示棟の様子が見れたことは参考になりよかったです。

併設の「鉄のくじら館」は、退役した潜水艦が陸に揚げられ艇内も見学ができた。陸に上がるとこんなにも大きいのかと驚いた。潜水艦は横須賀港では常駐しているので、横須賀では珍しいものではないが、退役した潜水艦の活用としては有効であると感じた。



海事記念館も横浜の氷川丸のように船を使って展示すれば、比較的安く、有効な展示もできるのではないかと議論になった。「大和」の模型よりも潜水艦の本物の迫力のほうが断然勝っていると感じました。